

## ==ある日のチャレンジ==

先日、はじめて子どもを遊園地に連れて行きました。実は、私は遊園地が大の苦手です。田舎育ちなもので、小さな頃あんなすごい乗り物は乗ったことがなく、大人になった今も怖いのです。ですから自然と足は遠のいていましたが、今回は子どものためと勇気を振り絞って、人生3回目の遊園地です。もちろん、乗り物によっては夫に娘を託すつもりですが…。ドキドキする気持ちは娘と同じです。

行ってみると勝手なもので、自分は怖いくせに怖がる娘には「大丈夫よ！ほら、小さな子も乗ってるじゃない」「きっと乗ったら楽しいよ！」などと言っているのですから無責任ですよ。それを聞いて娘は、「いやだ、絶対落ちそう」「高すぎる」と、バイキングやジェットコースターには頑として乗ろうとしません。その横にある、身長制限のないかわいらしい乗り物には、「行こう行こう！あれやる！」と嬉々として並びます。けれど、せっかく来たのですから東京の遊園地の楽しさを一つでも味わってほしいと思う親心。小さい乗り物で調子に乗ってきたら、「じゃあ、これ乗ったらちょっと高いの頑張ってみる？」「今のが出来たんだから、あっちもできるんじゃない？」「お父さんが一緒に乗ってくれるから心配ないよ」とあの手この手で挑戦しないかと誘います。娘「あれは絶対にいや」親「じゃあこっちは？」挑戦する乗り物も交渉しながら出来そうなものを探ります。頑張りたいけどやっぱり怖い、という気持ちは手に取るように分かります。出来ると分かっている乗り物で無理なく安心したい、という気持ちも分かります。けれど、親としては乗れないと思ったものが乗れた時の喜びや楽しさを感じてほしいとも思います。

そんな全てが、子どもの発達と親の気持ちそのものだな、と感じて必死に説得している自分がおかしくなりました。私も頑張っただけの中くらいの怖い乗り物に挑戦しました。チャレンジする迷いと興奮と嬉しさとで、私も娘もぐつたりの一日でした。

(臨床心理士 藤井あづさ)